

第2回住民説明及び意見交換会（豊岡第一地区）の概要	
日時	平成29年10月2日（月）午後7時～午後9時
場所	久保稲荷公民館
参加者	10名
<p>○質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡第1地区、第2地区は町名でいうとどこか <p>→細かい大字ではないが、豊岡第1地区は、扇町屋1区2区、豊岡3区、扇台、久保稲荷地区。豊岡第2地区は、東町地区。豊岡第3地区は、黒須、高倉地区です。</p> <p>○意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡第一区の概要の資料の中で、豊岡保育所は、定員に達してないと記載されているが、現在でも定員割れしているのか。 <p>→定員としてみた場合は、定員に達していない。ただ、実際には待機児童は確実に存在する。希望の保育所に入所できない状況。定員割れしている状況であれば、待機児童は、いないかというところではない。需要と、今の保育所の状況、老朽化も含めてズレかあると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員割れについては、近くに保育所があれば、入所させたいと思うが。 <p>→保育所の要望は、低年齢児受入や利便性などいろいろあると思う。公共施設の事業計画を作成後に個別に保育所整備計画を纏めていく必要がある。現在の需要や将来的なニーズというものを詳細に分析したうえで整備計画を煮詰めていくことになると思う。現状では、地域ごとに違いなどから、そこまでの分析したものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所は3つを1にする計画であるが、見直しもあると考えてよいか。 <p>→基本的な考えは、3つを1にする計画であるが、実際の需要を確認したときに施設を小さくして分散させたほうがよいという意見が出てくれば、見直しも検討していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡3区が、豊岡第1地区になったことから前回の扇町屋公民館でも発言したが、公共地区の配置状況に豊岡小学校及び豊岡中学校を記載してもらいたい。 <p>→学区を9地区の区分と同じにすることは、考えていない。実際には、豊岡3区の方は、豊岡小中に通っているので、意見があれば、豊岡第2地区の事業計画に反映していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見としては、第1地区の中に小学校には扇小と豊岡小、中学校には向原中、豊岡中を記載して欲しい。 <p>→9地区は、再編成するために設定した地区なので、逆に扇小・豊岡小、向原中・豊岡中の2つずつ施設があると、再編成で1つになるという考えになってしまう。そういう考えは、もっていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡第2地区にも豊岡小、豊岡中を記載すれば、すっきりする。この資料を見ると豊岡3区の方は、扇小に行くと思われ誤解する。 	

- 説明が不足しているので、表現を考えて加えたいと思う。2つ施設があると統合の対象となるので、他の地区からみれば異論がでることがあると思う。地域と学区のズレがあることは理解している。
- ・地域で福区区長及び公民館の運営副委員長をしている立場から久保稲荷公民館は統廃合の対象で廃止になるという前提で3つ質問する。方針については、避けては通れないことなので推進することは異論はない。
 - ・久保稲荷公民館は、和室の40畳からの和室も整備してあり避難所になっている。防災面をどのように考えているか。
 - ・老人憩いの家について、扇町屋2区は、自治会の加入は1300世帯、世帯数は4000世帯あり、10,000人以上いると自治会として認識している。敬老会対象は、800人超える対象者がいる。これだけの世界がありながら老人憩いの家が1ヶ所しかない。老人会にキャパがないから新規加入ができない状況。逆に老人憩いの家を増やすことが、市民サービスでは。
 - ・久保稲荷公民館は、文化協会に属していないので、しがらみが無く利用率が高いと思っている。公民館の利用状況のデータは、いつの資料か。
- データについては、公共施設マネジメント白書から抜粋し、平成24年度の資料を使用している。稼働率は、利用している部屋の有無の平均値をとり公民館全体のコマ数での利用率を算出している。利用の実感とズレが、あることは、指摘をうけている。
- ・公民館運営委員の資料から利用者数は、2016年4月から2017年3月は、198,073人となっている。前年は、206,578人利用している。45,066の差は。
- 200,000人ということは、把握できてなかった。平成25年度に公民館に調査をしてもらったデータを利用した。各公民館のカウントの仕方を統一して、午前午後夜間の利用コマ数から稼働率を算出と延人数にならないよう利用者数をカウントしてもらったと記憶している。指摘があった5倍の差は、持ち帰り返事をさせてもらいたい。
- ・ここの利用率は高い。平日の朝から夕方まで、ほとんどの部屋に空きが無い。駐車場の借地については、今後、買い上げたり、長期契約したらよい。自治会や公民館を何とかしようと思っている。市役所市民会館建て替えようなんて具の骨頂だ。これだけ、みんなが利用している公民館を本当に無くすのか。市政に疑問を感じている。早急に納得いく回答を。
 - ・説明があった基本方針や具体的な施策方針の案については、基本的に良いと思う。下水道関係の施設については、このマネジメントとは関係ないのか。賃貸で貸している施設についても老朽していると思うがこういう施設についても教えてもらいたい。施設の整理については、良いと思うが、金銭的な問題について市債を発行するかなど教えてもらいたい。
- 下水道の施設については、別会計となっていて、別途長寿命化計画を作成している。この公共施設マネジメント計画では、扱っていない。市営住宅につ

いては、この計画に含まれている。個別に長寿命化計画を作成している。その中で、集中化する方向で整備を進めている状況。コナミについては、都市信託の関係かと思うが、公共施設マネジメントに含めていない。個別の対応と考えている。市債の発行の関係については、30億円の財源については、一定額の市債は見込んでいる。全て市債ではないが、国の補助金など見込んでいない、整備のタイミングで出来るだけ活用を図っていく。適正規模の市債の発行は前提にしている。一般会計の予算は、400億前後であるが、建設地方債については、毎年上限15億円見込めるだろうと想定して歳入歳出の見込みを立てた。

・久保稲荷公民館、豊岡保育所や高倉保育所など借地と聞いている。年間の借地料は、大きな金額だと思う。借地料は、年間どのくらいか。また、近隣市町村も同様なのか、入間市が特別なのか。

→全体の借地料は、資料が無いので答えられない。久保稲荷公民館の借地料は、年間380万円ほど支払をしている。地区公民館の中では13館のうちで一部の借地を含めて5施設が借地がある。その他の公共施設、学校も含めて借地になっているところがあり、年間の借地料にすると相当な金額になると思う。実際に他の自治体も個別なデータは無いが、借地はあると思う。公共施設を整備する時に、地主さんとの交渉の中で、売ってくれる場合や、借地としてなどいろいろある。

・豊岡地区の概要の中で、市民会館が市役所と統合の計画だか、みんなの評判は良くない。出来れば今の規模の音楽ホールを残して貰いたい。

→市役所、市民会館は、耐震性能が低い。耐震補強や建替えなどいろいろな案を考えてきた。その中で複合化案を纏めてきたが、議会で検証中。市民会館については、いらぬ意見や2000人規模の要望などがあつたが、今の利用実態としては、複合化するのが良いと纏めてきた。

・久保稲荷公民館は、エレベーター無く足が悪い人がいると東町公民館を利用する時がある。使いやすい公民館であれば、みんな、近い公民館を利用する。久保稲荷公民館が無くなり、扇町屋公民館へ行くことは、今は車を運転できるが、今後、乗らなくなったら行けなくなる。子供の問題で、少なくなる前提で考えているが、入間市は、子育てしやすいまちと広く話されることになったら。若い世代が増えると思う。若い世代に魅力的なまちづくりをもっと真剣に考えた方が良い。児童数が減ったからといって、廃校するのではなく、空き教室ができれば、公民館として使うのは困るが、学童などの複合施設でみんなが活用できるものつくってもらいたい。市債については、次世代の人たちの借金になるので、極力増やさないで欲しい。久保稲荷公民館の利用者数など提供する資料については、最近の数字を使用して欲しい。地域で使いやすいものは、無くさないでほしい。

→出来るだけサービスは低下させないことを基本に持っている。エレベーターのことについても整備し維持管理をするには費用が掛かり、借金を増やさな

いで行なうのは、厳しい。施設を残して整備をするには、それだけ費用が掛かるので、そのバランスをとりながら皆さんの意見を聞きながら優先順位を含め考えていきたい。

- 先程から出ている久保稲荷公民館のエレベーターの問題について、20年前から何回も取り組んでいる。建物の構造上で、設置することが、出来ない。ホームエレベーターみたいなものでも構わないと思っているが、費用のことも含め、今のところ設置できていない。この問題は、運営委員として、十分承知している。

第2回住民説明及び意見交換会（豊岡第二地区）の概要	
日時	平成29年10月3日（火）午後7時～午後9時
場所	東町公民館
参加者	5名＋日高市2名
<p>○意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入間市の人口減少率は日本全体と変わらないようだが、こんなに減らないのでは。推計として信頼できるものなのか。 →大きな変動要素が無い限り確実ではないが減少すると思われる。出生率、流入・流出、年齢割合など特徴に合わせた総合的な対策が必要です。 ・保育所が少ない。利益の民間よりも公営が主軸のほうがサービスの的にも安心。 →民間整備への補助金は充実してきている。サービスの役割分担として民間がやらない部分の取り組みも大事。 ・八高線の複線化は必要。 →沿線における取り組みは続いている。 ・図書館を民間に任せると選書が偏るのでは。夜間開館は良くないのでは。 →本館で選書する形態は継続したい。すべて委託することは無いと考える。 ・一学級あたりの児童・生徒数は少ないほうが目が行き届くのではないか。 →教育委員会として、小学校は学年で2クラス、中学校は1学校10クラスを維持したい。すぐ統廃合するわけではなく状況を見ながら検討していく。部活動や専任教師の維持も含め適正人数の検討も必要です。 ・部活動を考慮しすぎるのは良くないのではないだろうか。外部委託はどうか。 ・今後、人口は東京につられて急激に減ると直感的に思う。マンションも空き家が増えているが、何か目玉が無いといけないのでは。 →空き家対策は別の部署ですすめている。空き家活用のご意見も集まっている。 ・厳しい状況のなか30億円の予算は確かに確保できるのか。30年計画の施設整備で、財政に山ができて平準化にならないのでは。 →財政計画は10年程度の見込みです。国政が大きく変化しない限りでの想定です。 施設の一元管理を取り入れ、起債等の活用で凸凹にならないように努める。 ・地区センターとして機能集中すると詰め込みすぎて必要なスペースが確保できないのでは。さらに駐車場が確保できるとは思えない。 →事業計画の大きな枠組みのなかで、既存を有効的に活用する複合化、建て替えによる複合化と段階的に総合的に様々な要因をまとめていく必要がある。 ・福祉は5年、こちらは30年、整合がとれていないのでは。 →考えていく必要があります。 ・地域拠点で一番重要なのは包括である。 →優先順位は高いと考えている。 ・市民会館・市庁舎は高額だと感じる。耐震強度はほんとに低いのだろうか。工法の検討など過程を分かりやすく説明して欲しい。我々が考えるための資 	

料があるとうれしい。段階ごとの資料がほしい。

→この件のご説明もしてはきましたが、時間が必要であるため今回は省略させてもらった。市としては必要な施設です。市民会館の存続の意見、議会での検討、まとまったら説明していきたい。

・学校は補強。建て替えないとダメなのか。耐震補強ではすまないのか。コンピューターが使えないので、情報は出してほしい。考えてみたいので。

→情報提供は色々な形で考えていきたい。

第2回住民説明及び意見交換会（豊岡第三地区地区）の概要	
日 時	平成29年10月5日（木）午後7時～午後9時
場 所	高倉公民館
参加者	12名
<p>○質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高倉小学校と黒須小学校の統合は理解できるが、先ほどの説明の中で小中一貫という話があったが、実際、現状として高倉小学校の児童は黒須中学校と豊岡中学校に分かれて（進学して）いる。黒須中学校では黒須小学校からの生徒が多いので高倉小学校からの生徒に対するいじめの問題が見受けられた。通学区でなんとか操作できるという説明は十分理解できるが、できたら高倉小学校での小中一貫というこれからの大事な教育をやって、他市ではまだ小中一貫というのは広まっていないと思うが、入間市で子育てや教育に「入間市は小中一貫で成果を上げている」というところを。地区にとっても小学校がある、中学校があるということで子育てに対しても若い人たちに魅力あるまちづくりを教育委員会を中心にして検討していただければ。私はまだ孫が同居しているわけではないが、同居するときには自信を持って（言えるように）「入間市はそういうところを他市に先駆けてやっている。」というところを検討いただければと思う。 →地区懇談会の中でも、小中一貫校までいなくても、金子地区は小中学校が並んでいて、連携がスムーズに図れており、効果が上がっているとのことがあった。並べて建てるというのも一つの方策ではないか、とのこともあった。それだけの敷地がないとできないことであるので、今の段階では、できる、できない等とは言えないが、一つの考え方としてはそのようなことは検討していく必要があると思う。一つの学校の中に小中合わせて入れるのはいろいろな条件があるので、それはこれからもう少し研究していかなければいけないと思う。そういった両方のパターンを教育委員会とも相談していければと思っている。 ・学校があるということはその周辺に若い世帯が家を持つ一つの条件になる。これから子供を生むのに学校から離れているところには住みたくない。通学区域の近いところの家を選ぶ場合にそのようにしていくと思う。高倉地域はかなりの茶畑があったが、後継者がいなくなり、建売住宅がどんどん建っているということをご存知だと思うが、小学校の周りにも茶畑がある。後継者がなく、他の場所と同じように住宅化していくのではないかと、いうときに学校が無くなったら、せっかくの若い息吹が出て行って、可能性が摘まれてしまうのではないかと。学校があるということは、地域、地区の運動会もやっているし、交流の場でもある。それがなくなって黒須小学校に行ってしまう、高倉が火が消えたようになってしまうことが心配である。まちをどう活性化するか、住んでいる人たちが住みよいまちにできるか、住民サービスはそこが大事であると思う。 	

→そのことについては地区懇談会、他の地区でも出されている。特に少し郊外の地区はもともと住民が少ないというところもあって、市街地の開発とかそういうことが先ではないかという意見も確かにある。ただ、現状は日本全体の人口が減少していく中で入間市だけが大幅に人口を増やすことは難しいという状況もある。

- 地域的には高倉地域は増えている。

→地区によってバラツキがある。高倉のほか、藤沢も増えている。統合の時期を何時にするかは人口の減少や人口動態を見ながらということになると思う。長期的に見たときにそこまで人口が増えていくということはなかなか見込めないということで、時期を見ながら統合のことは考えていく。1年、2年ですぐに統合ということではない。今話をさせていただいたのは30年間の計画の中でそういう方向性としてもっていきたいということである。その30年間で全体の人口も減っていき、税収も減っていくということは、残す学校はボロボロの学校という訳にはいかない、やはりそこを充実させるためには全体の量を少し減らしていかないといけない、という考え方から統合という話をしている。それは地域の振興も図りつつということにはなるかと思うが、そのあたりは状況を見ながら考えさせて頂ければと思う。

- 黒須小学校に統合するとき黒須小学校の場所は動かさないであろうという見通しで話を聞いていたが、高倉の端の子供は延々と山を越え、線路を越えて、(国道)16号も越えて行くのですか、という子供たちの教育条件、教育環境のことが心配である。

→学区については確かに統合していくことで全体を見直す必要が出てくると思う。先ほどお話を頂いたように、小学校から中学校に移るときに違うところに分かれるという状況はなるべく避けたい。同じ地区に小中学校が一つずつであれば1対1という形になり易くなる。今現在の学区がそのままが良いのか、通学距離の問題もあるので、そこは改めて学区の再編成は考える必要があるだろう。そのまま黒須にこの地域の子供が全員通うのが良いのか、そうではなく豊岡に通うのが良いのか、というところは統合となった場合には必要があるだろうと思う。

- 入間市でも一部小中一貫が始まっているか。

→小中一貫教育は各地区で。入間市が行っている小中一貫教育は、学校を併せるということはやっていなくて、小学校と中学校の交流を(行っている)。小学校から複数の中学校に分かれて行っているところはそれぞれの学校同志の交流を行っている。小学校と中学校の1対1の交流ではない。中には藤沢と豊岡との境だと3つの中学校に分かれてしまうところもある。そこは先生が行き来をしている。実際には小学校の先生が中学校に行って上がったばかりのお子さん達をサポートしたり、中学校の先生が受け入れるために小学校で少し指導したりという取り組みである。

- 具体的には同じ敷地内で、ということか。

→そこまでではない。並んでいる学校もいくつかある。金子や東町であり、スムーズでやりやすいというところはあると思う。他の地区でもソフトとしての小中一貫教育は続いている。

・可能性としては考えられるか。

→多くの方、多くの地区からもそのような意見が出ているし、金子地区、東町小中がスムーズに行っているというお話しも頂いている。長期的にはそういった形にしていくことは入間市の魅力としてアピールすることには繋がるのではないか。先ほどお話いただいたように、小学校から中学校へ、どうしても仲間が分かれてしまうということ、豊岡でも同じようなことをおっしゃっていた方がいらしたが、どこまで並べて整備できるかという物理的なことはなかなか難しい。そういうことで、学区の整理というのも考えていければと思う。ただこれも教育委員会が学区のことは主になるので、調整ができればと思う。

・背景や概要のところ、市の将来の財政面とか人口の問題とかは確かにそのような考え方はあるのだろうと思う。ただ、そういうことだからみんな我慢してくれよと、どうもそういう感じに取れてしょうがない。公民館の統合というのは。高齢者の負担が増えるとかいうことがあったりして。そうではなく、今日は説明が無かったが、市庁舎の建替えなんていうのは、例えば地区センターのようにそちらに移植するとか、分割することによっては市庁舎の今ある規模ではなくて、もっとコンパクトにできるのではないか。それを地区センターに廻したりするということになれば、80 数億であったか・・・

→試算では 82.4 億円である。

・そういうお金がもっとこういうところに廻せるお金が出てくるのではないかという気がする。したがって、今日は説明が無かったが、市庁舎の建替えについても懇談会で話がされるということのようだが、関連して全体で考えないと、行政、市政のお金の使われ方がどうなのか我々には分からないので、もう少し市民、地域住民の考え方、意向を多く取り上げてもらいたい。お金の面でも。今日は説明を伺ったばかりで、こういう風にしたらどうかというものは出てこないが。もう一回説明会があるようだが。

→今度は 11 月に同じ説明会をやらせていただく。またその時にご意見をいただければ。

・広い意味で効率化ばかりではなく、住民サービスをどうしたら良いのかということも併せて魅力ある説明がしていただけると我々も納得できるのだが、どうも今は我慢しろ、我慢しろという感じで聞いていた訳であるが、もう少し夢のある生活になるように説明会をしてもらえると助かるのだが。

→市役所の庁舎についてはもともとある古い庁舎の方が耐震性能が低い。市民の財産や情報を預かっている施設であり、また、災害が起きれば、市役所が潰れてしまふとなにもサービスが出来なくなってしまうので、耐震化は必要なことである。82.4 億円という大きな金額であるが、市民会館も耐震化が必

要な施設であるということで併せてコンパクトにして行こうというのが前提になっている。具体的な検討はこれからであるので、82.4億円は今の規模で建替えた場合の試算である。ご指摘いただいたようにコンパクトにできる部分はこれから具体化する中で考えていかななくてはいけない。これが少しでも抑えていければ、公共施設全体の整備に廻せる費用もそちらに分けることができると思う。今は試算額であるということでこれまでも説明させていただいている。これで決まりということではないということをご理解いただきたい。また11月にもう一度説明会があるので、今日説明を聞いてお考えを纏めていただいて、またその時にお話を頂ければありがたいと思う。

- ・黒須団地の中に老人憩いの家がある。去年あたりから自治会へ移管するような話が出てきている。その場合、老人会の構成メンバーが少なくなってきた。亡くなった人のあとの補充がきかない。そのようなことではいけないということで、孤独死の問題についても民生（委員）がいても零しがあるし、零しがないように老人のお互いの支え合いを立ち上げているところである。今後の私の予測は、老人会活動は活発になってくる。また、子供たちと老人会の世代間交流も行っている。自治会に移管するのが時流であればそれも良いのであろうが、その場合に移管するかどうかは各老人会の意向を踏まえてやっていただきたい。今まで核となっていたものが崩れてしまうと余計に駄目になって地域の老人会活動が駄目になっていく。そのようなことにもなってしまうので、十分気をつけながらお願いしたい。私どもの方では、自治会で活動する場合、いろいろな自治会の行事がある場合は、なかなか自治会は小回りが利かないので自治会の用事を入れる。そして、老人会は小回りが利くので老人会の定例会を一週間延ばそうとか支障がないようにしている。そういう運用の仕方をしているので、私どもの方では自治会に移管しなければならないとはそれほど感じていない。しかし、場所によっては老人憩いの家があっても老人会が潰れそうなどころがあると聞いている。そこはそこで検討していただいても良いかと思う。一概に全部を移管するということは今後大きな問題になってくるような気がする。

→先ほども触れたが、一律に、一斉にやるということは考えとしてない。高齢者支援課で状況は把握しているので、情報交換をしながら一つ一つの状況を見ながらやっていければと思っている。

- ・高倉公民館は、結局、黒須に統合する予定でいるのか。

→公民館は、地区センターという複合施設として統合したいという考え方である。できれば施設は地域の方に使っていただけるように残していく必要があるだろうとは思っている。

- ・高倉の上の人たちはだんだん年寄りが多くなってきた。平らな土地にあった方が良い。黒須に行ってしまうと下って上ってであり、それはちょっと無理がある。やはりここの土地、高倉の土地にあった方が良い。

→施設としてもまだ活用できるということもあるし、この地域にそういった施

設がなくなってしまうとデメリットもある。

- ・高倉という土地は何処に行くにも坂がある。だから年よりは弱ってしまう。
- ・バスも通っていない。
- ・切羽詰った問題ではないが、いろいろな人から聞かれる。市民会館は無くなるのですか。あそこは補修したりしなければならぬことがあるのだろうとは思いますが、あの建物が無くなって、それほどいい施設だとは思わないが、人間市にはああいういろいろな、文化的なことができる場所が、あれだけの収容人数がある場所が消えるのではないかということを実はものすごく聞かれる。ちょっと場違いかもしれないので躊躇したのだが、どういうふうな方向に行こうとしているのか。あれに代わるものが何かあるのか。それだけ何か聞かせていただければうれしい。

→今、具体的に検討している案としては、先ほども少しご指摘いただいたが、市役所と市民会館両方の耐震化は必要であるということで、それぞれがまた老朽化が進んでいる。耐震化するだけでも、また、耐震化した後に15年、20年経って建替えの時期が来てしまうということで、思い切ってここで建替えをするのが良いのだろうと。建替えをするときにはコンパクト化をするということは前提になってくる。そのコンパクト化をするために複合的に一緒に行こうという案になっている。今、市役所の敷地内に新しい棟、市役所の代わりの棟を建てて、そこに移って、今ある市役所を解体をして、そこに複合的な施設としてホールを持っていきたい、ということで、検討を進めている。今、実際には市議会等でもご議論いただいているので、それで決定ということではないが、今、我々が考えている案としては700席程度のホール。これは文化団体、演劇をやっていらっしゃる方とか音楽やっていらっしゃる方に伺っても、活動の場所としてはその程度のものが使いやすい、席の数よりも舞台装置、音響といったものに配慮してほしい、という声をいただいている。他の声としては、興業など、或いは、芸能などを呼んでくるといった形では1500、2000のホールが欲しいといった声もあるが、そうしますと年に数回しか使えない。そのために数億費用が増えてしまうということなので、我々としては市民の活動の場として使えるような文化ホールを作ればという案で考えている。まだ、具体的にどういった仕様にするかというのはこれからの話なので、今は基本的な考え方としてはそのような考え方を持っている。これは市長からも「文化活動の芽をなくさないように。」ということも指示をもらっている。市民の活動の場となるようなことを主に考えたいということである。

- ・学校の件であったが、市の方向としてはいくつか統合の案が出ている。今は小学校が16校あって、中学校が11校ある。市としては中学校の数に揃えて行きたいという方向性、考えを持っているのか。

→今の案は、中学校に合わせるということではなく、小学校も中学校も九つに設定したエリアの中に1校ずつということである。

- ・では、均等にということ考えているのか。
- そういった考え方である。
- ・先ほどから今後 30 年を見据えてということ伺ったが、公民館やいろいろな施設もそうであるが、老朽化とおっしゃっているが、その長い年月の間になくなってしまおう施設とか、そういう施設に対しても少しずつお金を掛けて、多少なりとも施設を維持していく形にもっていくということなのか。
- 先ほどもお話したかもしれないが、統合するためにはいくつか条件があると思う。児童数・生徒数の推移、建物の老朽化、地域の状況、今後の動向という条件があって、将来的には統合するにしても当面はまだ統合できないだろうということもたぶんあるだろう。そういった所についてはその間にある程度整備はする必要はあると思う。施設が壊れてしまおうとか、設備、機械は耐用年数があるので入替えたり、ということは当然必要になってくる。その時に統合が想定されている所に大規模な改修までやるかということ、それは少し抑えていく、という判断は出てくると思う。
- ・ということは、それなりにお金は多少なりとも、最低限はしていただけるということか。
- 教育環境とか安全性の確保ということは当然やらなければならない。
- ・逆に言えば、こういう所を地域の人に、ということだと、例えば、こういう施設を管理するところは民間に任せるとか、利用料金などで建物を維持していくという方向を考えているのか。
- 指定管理のことと思うが、今の段階では公民館についてはそういう形にして行こうという考えはない。基本的には地区センター化するというのも、地区センターという形にしたときは、ハードよりも中身のソフト、体制、窓口にするしてもそちらの方が大事なのだと思う。十分検討した上で民間の方がサービスが良くなりそうだということであれば、それは切り替えということもあるかもしれないが、今のところはそこまでは考慮していない。
- ・いつ合体するか分からないが、前提であったとしても、その間は高倉公民館で今までどおり高倉地区の住民がいろいろな催し物をやったり、利用するが、エレベーターがない。エレベーターを付けるような改修も可能であるということか。30 年間のうちに。
- そこは今の段階で可能であるとか、可能でないということとは言えない。
- ・一切そんなことはないということなのか。
- 地区センターにならなかった公民館については、できれば必要最小限の整備、安全性の確保というところに絞ってやっていきたいと思っている。それでエレベーターが必要かどうかは個々の判断になるかと思う。
- ・黒須、高倉の利用率が低いのは使いづらいからである。
- それは黒須からも伺っている。
- ・もっと使いやすい、利便性の高い施設ならば、住民のニーズとしては使いたい。将来統合するにしても、今使っている今の市民に対するサービスも大事

だと思うが、そのあたりのところはどうか。

→いずれにしても整備をするためには当然お金が掛かる。そのための費用をそれをやるからといって生み出すのはなかなか難しい。ですので、全体の中で配分をしていくということになる。それだけ数が多くなれば細かく分けていかざるを得ないということなので、当然、税収を増やす努力もしなくては行けないが、有る予算の中で優先順位を付けてやっていくということになってくると思う。それをどういう優先順位を付けるのか。個々にこれはやれる、これはやれないというのはなんとも言えない。そのように考えていくと、より優先順位の高いものはそれなりにある。

・地域住民の要望も重々・・・。

→要望としてもいろいろな要望を確かにいただいている。道路一つとってもなかなか破損しているところが直らないということもお話としてはいただいている。そういうものも含めて優先順位を付けていかざるを得ない。

・地区センターに昇格できなかった公民館は今までどおり利用できるという解釈で良いか。

→今のところは各地区の公民館は施設として使えるように残していくということは考えている。いくつかの公民館が統合の対象になっているので、まだ、それぞれの地区でこのように説明をしているので、それぞれ決定ということではないが、統合した場合に残った施設を地域の方に使っていただけるように。

・いままでの公民館と同じような使い勝手ということか。

→地区センターは自治振興の機能とか支所の機能も併せ持つ。それを運営するための組織を作るということであるが、イメージとしては残った施設は貸し館というか施設として使っていただけるような窓口だけを残して運営していくというようなイメージを持っている。

・窓口だけを残すとは。

→職員は何人も居て、公民館と同じようなサービスということではなくて、施設を使っていただけるような形だけを残すというイメージである。

・管理する人が居るというイメージか。

→はい。

・シルバー人材が居るというような・・・。

→具体的に言うとそのような・・・。

・要するに市の職員が居るのではなくて、という感じか。

→ただ、同じ地区内にある地区センターの公民館の職員が事業としては残った施設の方を使って何かやるということは当然あると思うが、場として市の職員が使ったり、事業をやったりということはあり得ると思う。常時職員が居るような形になるかということ、そういうところを少し縮減していければという考え方である。

・管理を高齢者にお願いしているような体裁になるかもしれないということで

理解してよいか。

→はい。

・跡地の問題で広報などに売却とか出ているが、例えば、公民館については売却の予定はないということか。

→公民館が地区で複数あるところがあるが、それぞれ範囲が広がったりという所もあるので、地域の方が使えるように、建物としてはそのまま使い続けるというように今は考えているので、ここは売却の対象にはならないのでは。学校等については、中には売却の対象になるところもあると思う。

・公民館は地域の発展の拠点である。これがなくなるということは地域の交流がなくなる。これから老人のいろいろな活動とかやるには公民館がなくては困る。だから統廃合ありきではなく、現在の小学校、中学校、公民館をいかに残すかということを考えていかないと、こうれからの地域の発展はなくなってしまわないかと思う。特に高倉地域は高台にあるので、動きにくい。そういうところを考慮して公民館、小学校を残すということで考えていかなければいけないと思う。

→地区の懇談会でもご意見をいただいているので、そのことも検討してみたいと思う。

・お願いがある。マンションに住んでいるが、マンションの修繕、建替えという問題が起きている。その中でいろいろと勉強していくと修繕の長期化、100年は持たせるといろいろな工法が開発されていて、50年と言われていたものがちゃんと100年持つというコンクリートの建物になっているというのを勉強してきた。市役所の建物も新しい技術や工法も進んでいるので、それも検討して、建替えではなくてきちんと長持ちさせられる検討もしていただきたい。

→そういったことも検討したいと思う。

第2回住民説明及び意見交換会（東金子地区）の概要	
日 時	平成29年10月2日（月）午後7時～午後9時
場 所	東金子公民館
参加者	13名
<p>○意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明資料の中には、1期、2期、3期と別れているのに何故その説明がきちんとされないのか？ ・なにを行うのか明確になっていないのではないのか？ ・公共施設を統廃合するといっているが、何年後の事を示しているのか？ ・東金子地区だけのことを説明しているが、広域というのは、市全体のことをいうのではないのか？配布資料の中には、1期目市役所、市民会館の記載があり2期目に具体的な説明がほしい。 <p>→公共施設マネジメント事業計画は、30年計画だが10年単位で3期に別けて行う事業計画となっている。まず始めに公共施設の耐用年数を考慮して30年後のイメージを造ることからスタートしている。10年先の事を計画する前に全体として市の財政的にも大丈夫なのか？人口はどうなのか？施設を作ってもしっかり利用されなければ意味がないのでまず、30年間の計画を作ろうとしている。30年間の枠組みが決まった上で10年間に分割して整備を進めていく考えである。しかし、10年経つと時代が変化するため10年後には、見直しを掛けながら整備を進めなければならない。というやり方で施設整備を進めていこうとしている。また、東金子地区には公民館、学校等地域住民が今後使用していく施設を中心に地域の実情とか実感にあった施設整備をしていく為に住民説明会や地区懇談会を設定させて頂いた。全体の施設についても意見はあるが、機会を設けて説明させて頂く。市役所、市民会館については、耐震性の問題がある。どの施設よりも先にやらなければならない認識でいる。耐震調査を行ったが、震度6で倒壊崩壊の危険性が高いとの診断結果を受けているため直近の課題と捉えている。早急な整備をしなければならないということで、別途検討を進めているところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年毎の区切りはどういう区切りをつけるのか？例えば10年後にこの辺まではやる、こういう計画で行う、10年後にはすでに手を付けているのか？どの時点で行うのか？ <p>→10年後までにやる計画を30年の枠組みと合わせて行っていく予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公共施設マネジメント事業計画の概要」P5に記載されている計画スケジュールについてだが、1期目が今やらなくてはいけない事で、2期3期については、こういう考え方だよという提案だと思うのだが、1期目はいつまでにやるのか？市役所等の公共施設の整備について一切説明がなされていない。説明資料を公表してしっかり説明すべきだと思う。次第表題に「公共施設整備の説明会」と記載がある。東金子とは一切記載がない。市全体の早急に考えられることを説明すべきではないか？公共施設の整備をこの場で説明するべきで 	

はないか？一期目はどうするのか？

→30年計画を決めてから10年を決めていく予定です。

・30年計画は、いつまでに決定するのか？

→今年度中に決定する予定。再整備、再配置を時間軸におとして決めていく。加えて財政計画も含めて作成するので財政が平準化するように計画を決定する。

・配布されている資料は、平成24年の資料。少なくとも3年分（25年、26年、27年）の資料があるはずだが、全く記載がない。また古い資料を基に検討するといっても今後どのようになるか判らない。例えば、この2年間でこの計画通りになっているため計画通りに進めますとか、25年26年27年でこのようになったのでこの計画を見直すとかが検討ではないのか？古い資料を基に今後の計画をする考え方は良いと思うが、具体的なことが判らない。少なくとも1期目は何をするのか？どうするのか？説明してほしい。

→資料については、公共施設マネジメント白書という白書を作成したのが平成26年10月だが、作成期間に1年費やしている。公共施設マネジメント推進課が4月発足しデータ集めを開始したところで、収集には時間を要するためデータ更新を1年に1回は更新していく予定です。また、早急に対応しなければならない計画はあるが、具体的にどのようにするのかは、決定していないし、1期目も決まっていない。地区懇談会等の意見を踏まえて決定していく予定です。

・計画は示されて、今年度中に決まるとの話だが、1期目の説明もされていないのにどうやって意見が纏まるのか？

→全体計画を策定してそこから10年毎の計画を造る。その辺については、市内各地区において説明会等で意見を頂いているので参考にしながら検討していくので、本日は具体的には提示できない。

・いつまでに具体的な案が出来るのか？その際は説明会を開催するのか？

→今年度中に決定し、説明会を行う予定です。ホームページ等の掲示は、市民全員が見れる訳ではない。チラシを配布するなど市民がわかるように周知してほしい。

・市庁舎の建て替えもまだ決定したわけではないということで宜しいか？

→決定した訳ではない。

・金額が出ているのはなぜ？

→耐震診断をした際に、概算見積を行った。診断結果をもとに早めに行おうということで、事業計画に記載をさせて頂いたが決定しているわけではない。

・この説明会は、どうして大勢のひとが集まれるような設定をしないのか？夜7時開催では仕事をしている人は、帰宅していない人が多い。子育てをしている人は、家事等で出席できない時間帯です。説明会を3回4回とするのであれば、昼間設けるとか日曜やるとか少し市役所も考えなければならない。ホームページでの掲示だけではパソコンができない人は見られない。

→開催設定日時については、各地区においても意見があるので出来る限りのこ

とはしていききたい。今後の説明会を行なう際には時間等を配慮して設定していききたい。

- ・有識者会議および地区懇談会を開いているが、有識者とはどんな選び方でどんな人が選ばれているのか知りたい。地区懇談会も誰が役員として選出されているのかわからない。地区懇談会では、30年計画に問題ないとの意見を頂いているとのことだが、誰が選ばれているのか判らないとこういった説明会に出席しても誰に伺ってよいのかわからない。懇談会参加者にも東金子地区のことしか言っていないか？市全体的なことは一切ないのか？本日の説明会を聞いても全体なのか東金子地区のことなのか判らない。折角、公共施設マネジメント推進課ができたのであれば、10年毎の具体的な案を示すべきではないか？また市としての意見を住民に示すわけだから他部署関連の発言できないでは困る。他部署関係なく一丸になって取組まなければいけないのでは？職員の能力に係ることだからしっかりやってもらわなくては困る。

→有識者会議メンバー及び地区懇談会メンバーは、市ホームページに掲載している。因みに地区懇談会メンバーは、区長、民生児童委員、公民館運営委員、青少年健全委員等の団体から推薦を頂き、11名で構成している。

- ・他の関連団体もあるのではないかな？

→小学校PTAの方も1人参加されている。

- ・地域団体には、関連した団体もあるはずだが、声掛けした団体を選んだ理由もあるはず。懇談会では、東金子地区のことしかやっていないのかな？

→広域施設については、話が出ている。しかし地区についての話が中心。

- ・地区の内容を公共施設マネジメント推進課で取り上げていくだけで市全体の話は取り上げられないのではないかな？なぜ地区ごとについて話し合うのかな？税金は同じでしょ？発想の仕方がよくないのでは？

- ・3回目も同じ事を行うのかな？

→基本、同じ事をおこなう。各地区の内容を纏め、来年1月以降に最終案を提示する予定。

- ・ただ、各地区3回の地区住民説明会を行った実績づくりのための会であれば、今までの役所と変わらない。

- ・小学校も新久小、東金子小の児童数も15年のうちに各100名程度しか減少しない。82億の建て替えはいつになるかな？小中学校の耐震はすんだ。市庁舎も耐震すればよい。建て替えはゼネコンが絡み、地元会社が潤わない。

- ・人口増加とか企業誘致とか前向きな考えかたはないかな？

→ひと・まち・仕事総合戦略会議で働きやすいまちづくり、ずっと住みたいまちづくり子供たちを支える街の魅力を生かすの基本方針の基に具体的な施策を練っている。

- ・具体的には、纏まっていないのですか？

→そうです。

- ・市ホームページに記載があると言っていたが。

- 具体的な内容が纏まっていないということです。
- ・ホームページに乗っているのであればなぜ資料を提供しないのか？類似した意見が各地区で上がっているのでは？各地区の意見が生かされていないのでは？
- 本日は、公共施設マネジメントとしての説明会であるため人口等については説明はしません。
- ・建て替えをしないのであれば、余ったお金で給食費を無料にするとか、医療費を高校まで延長するとかにして頂きたい。
- 市庁舎の計画については、市民の方の意見も取り入れていく為ワークショップを開いているところで意見を纏めて今年度中に発表できればと思う。
- ・最初から言っているのですが、どうして公表できる資料をもとに説明をしないのか？検討した資料をもとにいつできるとかは、ないのか？
- 現時点ではありません。配置の案がきまってから検討することになっている。
- ・説明会については、3回あるがその都度参加者がことなるため、前回出た意見等は、発表したほうがよいと思われる。住民に意見を求める為しっかりとした資料を作成して頂きたい。
- 承知しました。次回3回目も現時点では、同じ資料をもとに説明をさせて頂く予定で、今回の内容は次回冒頭に説明させて頂いた上で意見を伺うことになる。公共施設全般のことを伺いたい方は、声をかけて頂きたいと思います。

第2回住民説明及び意見交換会（金子地区）の概要	
日時	平成29年10月3日（火）午後7時～午後9時
場所	金子公民館
参加者	16名
<p>○質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支所、公民館の複合化において、情報のインフラについてどのように考えているのか。金子からは本庁舎は遠いので支所が公民館にあることをありがたく感じている。複合化した後、今の支所の行政的な機能で足りているのか、本庁舎に行かなくても事足りるような計画なのか。 →具体的にどのような機能にするかは地区住民のニーズをとらえた上で、別途検討する。地区センターには自治振興機能を設ける予定である。それは地域の課題や実態を把握するといった、現在の支所長が一人で担っている役割である。支所機能の充実に伴って地区住民の本庁舎利用は減ることになる。人員配置も検討していかなければならない。 ・計画のスケジュールは1期～3期とあるが、全体の流れを見ると地区センターの話がメインであった。公民館を地区センターにするのは3期に行われるのか。1期に産業文化センターの大規模改修工事、市役所の建て替え工事を計画しているようだが、地域のことをもう少し考えて欲しい。地区センター化よりも市役所の建替え時期が先なのか。 →公共施設マネジメントでは30年計画であり、その中で10年毎に区切り計画を立てる予定である。学校は1期、公民館は3期に耐用年数を迎える。建替えというのは、その耐用年数で行うと想定しており、公民館の地区センター化はできる限り1期に実施したい。財政状況も踏まえて決定していく。また、1期に産業文化センターや市役所の工事を行うのは、老朽化の他に耐震化の問題も抱えているためである。同じく耐震性能の劣る施設として市民会館がある。市民会館の耐震化を図る際に施設を閉鎖するとホールが使用できなくなる。その時市民会館のホールの機能を担うのが産業文化センターのホールであるため、1期に産業文化センターの大規模改修工事を行う。 ・地区センターにする際には、支所機能を残して欲しい。公民館を統合して地区センター化することで人員が減りサービスの低下が起きるのではないか。 →職員のスキル向上や、本庁舎のことも考え、今いる人数だけではなく、本庁舎からも人員を配置できるように検討したい。 ・今はハコモノだけについてだけ説明を受けたが、プラント系やインフラ系の予算についての説明はないのか。 →今回はハコモノの話だけである。 ・プラント系は今のマネジメントの検討には全く入れていないのか。 →インフラやプラントについては含まれていない。インフラを含めて公共施設にはどの程度お金をかけることができるのか試算はした。財政計画上廃止できないため、更新するための維持管理の計画はできている。しかし、インフ 	

ラやプラントについては統廃合することが難しく、現在はハコモノだけを検討している。

・他部署で検討されているのか。

→はい。

・市全体の予算はハコモノに限ってのものか。

→市の中期財政計画でインフラ含め 30 億円程度確保したい。そのうち 11.3 億円はインフラにかける金額で、残りの 18.7 億円はハコモノに充てる。

インフラは廃止することは難しく、ハコモノにしわ寄せがきている状況である。

第2回住民説明及び意見交換会（宮寺・二本木地区）の概要	
日 時	平成29年10月5日（木）午後7時～午後9時
場 所	博物館アリット
参加者	29名
<p>○質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狭山小、宮寺小の通学について。国道16号線の交通量は多いが、（日本に）国道をまたいで通わせている行政があるのか。また、それを把握しているのか。存在する場合、どのようにして通学させているのか（アンダーバー、スクールバス、歩道橋等）。宮寺地区は特殊な地域だと思うが、国道をまたいで通学させるリスクを負ってでも、宮寺小をなくさなければならないのか。そこまで至るような強い理由があつての提案なのか。 →把握している。アンダーパス（立体交差で、掘り下げ式になっている下の道路のこと）は高倉地区にある。地区懇談会でもスクールバスは必要だというご意見は頂いている。スクールバスの必要性和2校共も残すというようなことも踏まえて検討していく。仏子と野田は同じ課題があり、地区懇談会の意見の中で、小学校と中学校を統合し両地区に残せないかという意見もある。これについては教育委員会と共に今後検討していく必要がある（狭山小と宮寺小は残せる余地はある）。 ・今後、どのくらいの期間で最終的に計画が決定するのか。 →事業計画の原案を年明けに公表する予定。選択肢をいくつか提示しつつ、今後の方向性を決めていく必要があると考える。 ・宮寺に地区センターを設けた場合、二本木公民館は貸し出しの施設として使っていけるが、今の職員体制と比べてどのように変わるのか。 →今後公民館のあり方についても含めて検討していく。 ・資料によると、入間市の2040年の人口は現在と比べて6割になっている。そういったことから、今後30年間でこの計画を見直すことはないのか。 →10年に1回見直す必要があると考える。 ・市民会館が今後どうなるかは決まってないと思うが、本当に必要なのかどうかを検討して欲しい。建てたことによって、地域にお金が回ってくるのかが心配。 →現在、市民の方（20名程度）と早稲田大学とでワークショップを行っており、検証中である。市民会館の必要性について今後検討していく。 ・博物館を含めて、施設の金食い虫と稼働率を平行して洗い出して、見直して欲しい。稼働率等の数字を市民に知らせて欲しい。 →ホームページ等で公開している。 ・指定管理者方式にしてから、やまゆり荘のどういうところが良くなりましたか？4月から石鹸を各自持つてくるようになったが、これは良くなりましたか？お風呂もお湯が出なくなった。指定監理者方式にしてから悪化した。市の支出を減らすために行ったのではないか。市は住民福祉のためにある 	

のに、これだと全体的におかしい。

→担当課と検証して回答します。

○意見等

- ・「構想ができ、安全性を配慮できたので、ご理解をお願いします。」という順序ならわかるが、「方向性を決めて、課題を検討する。」というのは順序が逆ではないかと思う。それだと、たたき台というより事情が決定していて、それを理解させるための懇談会になってしまう。
- ・9地区全ての統廃合は反対していないが、入間の宮寺は特別な事情があるため、残すものは残すべきだと思う。
- ・この説明会があること自体を知らない人が多いのではないか。私の場合だと、通知をもらった時点では、第一回住民説明会は既に終了していた。
- ・統廃合によって、施設を再配置した場合、避難場所として行ける人と行けない人が出てくると思う。その時の対応を考えて頂きたい。

→空き家の活用を考えてみてはどうか、という意見があった。今後検討していく。

- ・統廃合する場合、安全を確認してから行って欲しい。
- ・買い物等で入間市駅に行くより、武蔵藤沢駅に行った方が利便性が良い。武蔵藤沢駅直通の延長工事を早急に実施して欲しい。
- ・統廃合によって、入間市に住みたいと思う若者が減ってしまう恐れがある。統廃合は慎重に考えて頂きたい。統廃合と同時に入間市の魅力アップになることをやっていただきたい。

第 2 回住民説明及び意見交換会（藤沢第一地区）の概要	
日 時	平成 29 年 10 月 2 日（月）午後 7 時～午後 9 時
場 所	藤の台公民館
参加者	3 名(女性 2 名、男性 1 名)
<p>○意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢第 1 地区と第 2 地区は今回のために分けたものですか？ →地域福祉計画等色々な計画を参考に公共施設の再編での一つの参考として設定したものである。 ・藤の台公民館で通学学習を南小が利用する。しかしグリーンヒルの人たちは藤小を利用して、藤小の方はこちらには来ないのはなぜ？ →区分わけは先程話したとおりです。南小での地域の不一致は他地区でも起きています。今後地域の関係と児童の学区についても検討する必要のある課題として取り組みます。 ・成人式に参加したときに藤小の子が向中と藤中に分かれて向中が一部、藤中が二部で行います藤沢地区の二部で小学校の恩師からのビデオレターを流すと向中に行った子が見られないのは可哀想ではないか？ →検討の必要な課題として持ち帰りさせていただきます。 ・市民会館や藤の台公民館の指定管理はいつからおこなうのか？ →まだ行うこと自体あまり進んではいない、意見の一つとして挙げられていますが、施設を今後どうしていくかは現在も検討中です。今考えているのが、児童センターと博物館があります。両方の管理部門だけを行う予定で選定中である。来年の 4 月から行う予定です。公民館は現状未定です。 ・避難場所した場合の利用する時に鍵はどこのだなたが保管されているかもしくは誰が開けるのか？ →そちらは、今後施設統合に合わせて計画していきます。地域ごとに使いやすい様にしていくかを今後考えていかなければいけない課題だと考えております。 →公共施設の話としては何となく分かるのですが、配置バランスなのか稼働率なのかどれを視点に市としてどのように変えていくのかが分からない。 →申し訳ありませんが説明できません。 ・施設の利用で中にはそこまで利用していない人の意見を取り入れたか？その人たちの意見も取り入れた方がよいのではないのか？ →今回の会だったり、施設を使っている方々にアンケートを取ったり。待機児童の数を参考に考え、施設の利用の時に個人で借りられないとのご意見なども取り入れて反映させていきたい。 ・施設が使えばなしになっていたのですね。 →今までは予防保全に取り組めていなかった。 ・詳しい地区わけはどうなっているの？ →上藤沢、下藤沢、東藤沢 1 丁目が 1 地区、東藤沢 2 丁目から 8 丁目が 2 地区 	

です。藤の台公民館は第1地区になります。角衛団地が第2地区になります。

- ・第2地区に関しては行わないのですか？

→第2地区についての説明を省いているだけです。資料には載っています。

- ・第1地区と第2地区と一緒に考えなくていいの？

→考え方の土台として地区区分を行っています。しかし、施設の再編を行う時にはもっと広い視野で行う予定です。

- ・グラフが見にくいのですが人口がやや減りで良いのでしょうか？

→全体的に減少傾向ですが、平成24年度に作成した資料では藤沢地区に関しては駅前の整備が進んでいるので人口の変化に差異が出てきています。場所によっては、人口の減少が緩やかで児童が増えていたり減っていない場合も起きていますので施設の統廃合も10年ごとに見直しながらい長いスパンで計画する予定です。

- ・整備状況の棒グラフはどう見ればいいのか？

→地区年別整備状況は建てた年と立てた面積で表しているグラフです。増築や新築、建て替えを行うと増加します

- ・下の今後の係る予算は？

→今後施設を建てる場合や建て替える場合等に係る予算を国が提供するシステムで計算して単価を出して現在の財源等から出した概算です。

- ・市民会館はあの場所で建て替え出来ないの？あと何故市役所と一緒に立てるの？

→市役所と市民会館の建て替えを検討しています。両方の耐震性能が著しく低下しています。耐震化を行うより費用効果の面から新しく建て替える方が良い。市民会館の建て替えの場合法律による制限があります。市役所も建て替えを行うときに市民会館の機能を合わせたものを建てる予定です。

- ・市民会館が無くなった場合土地は何に使うの？

→近くの愛宕公園の一部として使う予定です。他に公民科等の地域の施設としてなら使用できます。ですが、現状の段階では具体的な計画は無い状態です。

- ・市役所の建て替えは今の建物を全て壊して市役所と市民会館の機能を持った一つの建物にするのか？

→市役所はA棟・B棟・C棟の3つの棟から出来ています。建築年数が若いC棟を残し他は取り壊します。北西側の駐車場に事務所関係の機能を持った建物を建てて、茶畑のところに市民会館の機能を持った建物を建てる予定です。今のA・B棟があった場所に市民会館の機能がある建物を建てる予定です。

- ・駐車場をつぶすと駐車場はどうするの？さらに公用車はどうするの？

→駐車場の市役所と市民会館の分を合わせると足りなくなる課題が有ります。公用車に関しては具体的な説明はまだできない状態ですけど、他の場所を借りるか買い上げるなどを考えております。

第2回住民説明及び意見交換会（藤沢第二地区）の概要	
日 時	平成29年10月3日（火）午後7時～午後9時
場 所	東藤沢公民館
参加者	3名
<p>○質疑等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な方向性はこれ以上のものは出てこないだろうと思う。大枠はこの方向性で行かざるを得ないと思うが、市の財政の問題が心配である。総合計画の説明会の時に2、3年後から毎年20～30億円収支が赤字になるとのシミュレーションが示された。市役所本庁舎A・B棟の建替えもスケジュール化されている。 ・ 東藤沢は市内でも高齢化の最先端地域である。現在の東藤沢の高齢化率は約32%である。市の計画ごとに圏域の捕らえ方が異なる。この計画では3丁目から8丁目となっているが、我々の日常生活圏域は1丁目から8丁目である。地域包括支援センターもこれに対応している。福祉の生活圏域も民児協の圏域であり、1、2丁目を外れており、市民と関係のないところで圏域が区切られている。日常生活圏域と福祉の生活圏域とを統一して提案していただきたい。 ・ 公民館は地域の生涯学習や社会教育の学習拠点になっている。高齢者の利用率も高い施設である。稼働率や利用率が東藤沢は35%、市内全域では33%となっているが、どのように稼働率の計算がされているのかがよく分からないので説明願う。 ・ 老人憩いの家については、これまでは「老人会が使っている。」程度の認識であり、どの程度利用されているのか分からなかった。高齢化率が上がってくると老人会が使うだけでなく、高齢者が使える施設として再活用が必要が出てくるのではないかと。公民館が地区センター化すれば、利便性は向上するのだろうが、従来型の公民館は縮小される。高齢者が気軽に使える施設がある程度地元にはないと困るのではないかと。 ・ 公民館について、福祉の関連で高齢者支援課に話をしているが、国の介護保険制度が財政的にかなりきつくなっており、国としては介護保険制度を当初の形から崩してきている。典型的な例が要支援-1、-2の総合事業。入間市独自の事業で、介護保険の財源プラス市の財源で要支援-1、-2をある程度面倒を見ており、その分市の一般財源が増えている。公民館を介護予防等の視点で活用している部分はかなり大きい。介護教室や脳トレ体操などに活用している。問題として、次の次あたりの改訂で要介護-1、-2を総合事業に移すという方向付けをするのではないかと。国の介護保険制度は、要介護-3から-5は介護保険でまかない、要介護-2以下は要支援-1、-2を含め、市町村の事業に移行する、と。そのようにならないためには、介護予防などいろいろなものが必要になってくる。公民館の機能は高齢化や国の需要もあって変わってくる。地区センター化の構想については一定の評価をしている。 	

お金の問題としては、確かに施設を減らすことによってお金が出てくる（節約できる）だろう。そこに介護予防などで圧縮できたお金が上乗せになってくる。一方で効率化するが、一方でお金が出ていくということを総合的に施策として考えていく必要があるのでは。

公民館の利用率の問題も施設の利用者の年齢がどのあたりの層なのか。私のイメージでは6、7割は高齢者ではないかと思う。利用の実態を検討していかないと13を9つに減らせば4つ減るからお金が浮くよという単純計算では行かないのではないか。そのあたりをもう少し精査していかないと数を減らせばいいとは一概には言えない。高齢者の利用が多いとすれば、歩ける距離は限られる。せいぜい1km、おそらく2km離れたら高齢者にはしんどいと思う。公民館を利用していた方が利用しずらくなって要介護に繋がっていくことになればお金の問題は先ほどのとおり一緒である。高齢者支援課にもこのような話をした。これからの施策を展開するにあたって、部分ごとに見るのではなく、総合的にお金の使い方（を考える必要がある。）福祉にお金がかかるのはこれからはやはりそうだと思う。要するに国が財源がないから市町村に振ってきている。そこで市町村が大きく展開できますということをやっているけれども実際には市町村にも財布が必要である。

→公民館の利用率の出し方は、貸し出しで使っている施設の使える部屋のコマ数に対して実際に使った割合ということを出している。夜間の利用の状況であったり、施設によっては会議室等の利用が多い半面、和室の利用が少ないなどの理由もあって、全体的な利用率が低くなっているという状況があると把握している。

・利用率が低いとしたら、その原因（は何か）。いろいろな規則やルールがあって、すぐに使いたいと思っても使いづらい仕組みがあるのではないか。低いのを低いまま放置するのか、そこをもう少し生かすようにするのかという視点もこれからは必要であると思う。

→地区懇談会や他の地区の意見交換会でも同じようなご指摘を頂いている。サークル登録や団体登録がないと使えなかったり、ということがある。個人として、或いは、登録がなくても使うことができれば使う、というご意見を頂いている。また、予約手続きの方法が煩雑である、といったご意見も頂いているので、そういった部分もよく見直して、施設をよりよく使っていただけるような方法であったり、公民館の事業としても先ほど話しのあった介護予防の取り組みであったり、既に行っている健康福祉センターから保健師が来て行っている事業をもっと組み込むなど、地域の方がどんな公民館事業を求めているのかということも公民館も模索している状況であるので、頂いたご意見も伝えてよりよく施設を使えるようにしていきたいと考えている。

・運営方法について、直営方式でいくのが良いのか。もちろん維持コストはかかると思うが、人件費はどうなのか、今は市の職員が来てやっているわけでコスト的にはけっこうかかっていると思う。民営化や施設の管理委託など、

図書館もそうになってきている。やまゆり荘もワーカーズコープに委託されている。委託してみてサービスは上がっていると思う。どこまで直営でやるのかということも含めて、何が何でもコスト削減のため3割削減という前に活用や運営などで工夫するほうがトータルコストはどうか。それをやらずにいきなりバッサリというのは乱暴だろうと思う。

→施設と施設を使っている方の距離が遠くなったり、不便になってしまって内に籠ってしまうことがあったり、老人憩いの家も利用が減ってきてしまっている現実があるにしてもそういう所を大事に使っている方がいるというのは各地区でご意見を頂いている。反面、施設を地区で維持していくのが大変であるという意見も頂いている。利用の状況や地域の状況を踏まえて担当課とも相談しながら施設の整備を考えていく。

- ・資料「地区懇談会における主な意見について」懇談会は意見・要望の場なのか。マネジメントについて、綿密に練って、データもしっかりしていると思うが、懇談会の方たちの受け止め方、なぜここまでやるのかという説明、特に前段のプロセスの説明をどのようにしていったのかを聞きたい。裏を返せば懇談会では意見と要望として出てきてしまうので、もうここまで大鉦を振るわないと成り立っていかないということか。個人的には東藤沢はもうとっくに限界集落になっているのではないかという思いがある。

実際、このような政治的な方向付けがされて、老人憩いの家関係はマネジメントが示されてから利用率（向上）を図ろうという取り組みがスタートした。ひとつの刺激となるのは結構なことであるけれども、今ここへ来てなんとか現状維持、目先のことだけやって、30年先のことをやっているわけで、市も総合計画をスタートしたわけであるから、なぜここに至ったかというところをもう少し理解できるような方策をとっていただければと思う。関心のある方はそのあたりのところは十分承知していると思うが。

→懇談会でも市の財政の状況であったり、今後の施設の見通しであったり、利用についての説明をしてご意見を頂いている。懇談会では施設に限らず、これまでご意見を伺う機会もあまりなかったと思うのでいろいろなご意見をいただいたものと考えている。ご意見やご要望をいただいてもすぐに回答できるものでなかったり、公共施設について、総合計画に基づいて市のまちづくりの方向性を定め、持続的に公共サービスを提供していくために公共施設を整備していくという枠組みの中で、教育のことに関して詳しく説明ができないことについてお叱りをいただいたりすることがある。市の現在の財政状況や今後の見通しを踏まえてご意見をいただく場とさせていただいた。いろいろな団体の方にご出席いただいております、お持ちいただいた各団体の思いがご意見として出ているのではないかと思います。よりよく施設を整備していく中で、こういう視点があったとか、市の職員だけでは分からない視点というものもたくさんいただいているので、計画を練っていく中ではたいへんありがたい意見である。老人憩いの家について、市の取り組みが刺激になったということ

であるが、地域で施設を大事にしていこうということを無碍にする取り組みではない。長い期間、将来的な利用を検討していく中で地域の方々の意見を踏まえてよく考えていく。財政状況もあり、福祉や教育のほか、公共施設にどれだけお金を投下できるのかはよく見ていかなければならないと考えている。この計画についても30年の大きな枠組みの中でここで決めたものがそのまま進むというものではない。10年ごとくらいに見直しをしていく必要があると認識している。大きな枠組みを決めて、この地区の公共施設は概ねこういう方向性で整備していくのがよいのではないかという地域の方々の合意形成を踏まえたうえで、では、実際に学校を整備するときにはどういう課題があるかということについてより詳しく整理していく計画についてはこの大枠に基づいて作っていく作業をこれから進めていくよう考えている。このような意見交換の場を設定して、より歩み寄れる計画にしていきたいと考えている。

- ・老人憩いの家もそうだが、長年老人クラブや老人会に管理委託していると既得権益化する。子供や地域がなかなか利用できない仕組みになっている。活用するのであれば名称を「市民憩いの家」や「市民サロン」とするなどイメージチェンジしては。オレンジサロンなどのサロン化、地域のたまり場づくりに四苦八苦しているわけで、そういう施設を有効活用することも方法論の一つとしてあるのでは。既得権益を一度外してそこでもう一回計画的に活用する途があるのかなのかというのも考え方の一つとしてあるのではないか。そう言うは大鉈を振るえないではないかという考え方もあるが、これだけの資源をただ効率化という鉈で断ち切ってしまっているものか。いろいろな整理の仕方があるのではないか。

・市内の老人憩いの家の数は。

→49か所ある。

- ・たまに利用させていただいている近くの施設は、造った経緯が土地は市が提供する、建物は地域という方法のものが地域に2か所ある。寄付金などで上物を造ったが、50か所近いものはそのように造られたものであるか。

→老人憩いの家は、建物も市で、県の補助金を受けて造られている。土地は市の所有や借地もある。地域の方々の寄付だけで建てたという認識はなかった。自治会館については自治会のお金と市からの寄付で建てられている。自治会館と老人憩いの家は費用の出所の差異がある。

- ・これから維持管理していくにあたり、おそらく財政的にはたいへんであろうから、そういうところを整理して統廃合であろうが、国民宿舎と永光苑を売却、整理してそれを財源にして維持管理していくのだらうと思うがそのような理解でよろしいか。

→施設によっては使われなくなった土地を売却したり、一定期間貸付をして収益を得るような検討を行うところもある。国民宿舎は建物が建てられないような土地であるので、状況によっては除却をしても売れなかつたり、使えな

かったりする。公共施設であるから建てられたのであり、民間の方が使うには制限がかかってしまうなどの状況もある。今ある施設を公共利用しなくなって民間に貸し出す、若しくは更地にして土地を貸す、若しくは売却という方法で市の歳入としていくことも併せて検討を進めていく状況である。

- ・確認であるが、建物は30年、40年経っており、価値は無いのであろうから、それぞれの土地を売却していくという説明であったが、施設をなんとか地域でやっていくので任せてくれないか、というようなケースはあるか。

→今までのなかでは話題等に出ていないが、老人憩いの家については既に自治会館として使われているところもあったり、老人クラブだけではなく地域に開放して子ども会に使われているような地区もあるとの意見を頂いている。老人憩いの家としての位置づけがなくなっても、地域で施設を使っていきたいというようなご意見があれば、市から譲渡し、ただし管理は地区にお願いするなどの方法をとらざるを得ない場合もあろうが、地域の意見、意向を踏まえて譲渡や地域の方々に使っていただくという方策も検討していきたいと考えている。老人憩いの家については高齢者にとって行きやすい場所であって、家からも近いところであって便利であるとの意見を各地で多数頂いている。利用の状況や利用のあり方

- ・運営方法が変われば利用の仕方も変わる。老人クラブの活動がよく分からなかったが、自分がその年になってきてみるとやはり老人会、老人クラブの役割はあるのだろうと思う。今は老人憩いの家を使って介護予防の教室を老人会とタイアップして行っている。健康づくりのボランティア団体と老人クラブと連携して、そこに市の介護保険課や高齢者支援課が連携して介護予防の拠点としていくなど、今までの老人憩いの家の利活用の仕方から新しい形に変わってくるだろう。老人クラブ自体も変質していくだろう。市民会館で行われた市の老人クラブの老連の集会に参加してきたが、いろいろと新しい試みを始めている。うまく成功するかは分からないが、県の老連の指導もあって市の老連もいろいろとやっけていこうと。そこにやまゆり荘のワーカーズコープが老連の事務局をやっているので、いい意味で連携が始まって何か新しいことをやってくれるんだ、という感じで見ている。直近でも老人クラブの会合が共同宣言として新しいことをやると打ち上げていた。時間はかかるのだろうと思うが、老人クラブも意識を改革していろいろと新しい老人クラブのあり方を模索している時期に拠点としてあるものを利活用するということも含めてもう少しいろいろと考えてもいい部分があるのではないかな。これまでは無駄な施設であるとの認識であったが、必ずしもそうとも言い切れない、これをどのように生かすのかという視点があってもいいのではないかなというのが私の最近の考え方である。いずれ私も老人クラブにお世話になるので老人会の方々ともそのような話をしている。今は高齢化しているので維持することに汲汲としているのであろうが、変わってくると思う。社会が変わるといことは老人クラブのあり方を変える。社会や環境の変化に施設が対応し

ていく部分があると思う。今の時点でいえば考え方の大枠としてはいいだろうが、そういう社会環境の変化をこれから見ていくときに施設としてどういう活用の仕方があるのかということの中長期で見ないといけない面もあるだろう。今の時点で物事を判断して決めて、これはやる、これはやらないという整理の仕方が正しいのかどうか。後から検証することはできると思うが、それはもう後の祭りになってしまう。大枠としては理解しつつも、いろいろな要素を加味して行政としても慎重に検討していく部分があるのだろうと思う。

→大きな枠の中で、利用状況や人口動向を踏まえて、時点時点での見直しをしながらよりよい計画として練っていききたい。30年として定め、10年、また10年と経って、市の福祉の計画等とも足並みを揃えて施設の整備にあたっていききたいと考えている。

- ・計画も30年という長期間であるが、10年区切りでやっていくのか、或いは、もう少し区切り方を変えていくのかということも含めていろいろな考え方があるのだろうと思う。市民も今の状況が分かっている人が見ればある程度の受け止めはあるのだろうと思うが、本当にスパッとやってしまっただけで地域が安心して暮らせるのか。

東藤沢で「支え合い東藤沢」の事務局を担っている。地域が高齢化してきて住民同士で助け合いをしているが、利用者がどんどん増えてきて、できないことが増えてきて、支え手が高齢化しており、ボランティアがバランス上会っていかないといけない。福祉の面では地域支え合いをどうするのか等を検討していただいている。公民館を月・水・金と事務局で利用させていただいているが、仮に支え合いを活性化していろいろなことをやろうとすると、もう少し今のやり方を変えないといけない。要するに一つ一つを見ていくと変化する要素はあるということ。変化を全部見込むことはできないまでも、それを一定の変数として見て行かないと。公民館の役割やあり方が変わっていくと。老人憩いの家もそうである。学校や保育所は利用者の絶対数が決まっているが、公民館は地域の拠点としてどうするのか、地域コミュニティを再構築しないと地域がもたないという状況であると思う。地域でなんとかやってくれ、ということで自治会も今まで苦勞して頑張ってきた。支え合いも何ヵ所か広がってきた。それを育てていって地域福祉を担っていく形で、行政だけでなく、地域住民と一緒によい入間市をつくろうという方向で行くとしたら、その建て方というのはそれなりにあるだろう。高齢者支援課にもそういう話をしているところであるが、住民いえどもそこまで考える人もいれば、どうでもいいという人もいるかもしれない。多様性があるので一概には言えないが、要は地域をどうするかということ。国も国ができないことを地方自治にやらせて、地方自治の行き着くところは住民自治になる。そういう大きな流れで時代が進んできて、地方自治を住民自治に進めていくときに、やはり拠点と成り得るということでも公民館のあり方が問われている。だから、なかなか単純には行かないのではないかな。その

あたりをもう少しいろいろな人の意見を集約していただきたいと思う。この計画自体は分かる。このようにしなければならぬ状況があるということについて理解できない人はいないと思う。かといって、では、どうするのか。そういう意味でこういう説明会で市民に問題を投げかけているわけであるから、いい機会であると思う。これからは行政だけでは物は仕切れないし、お金は仕切れないし、住民との連携、協働というところを抜きにして地域社会は成り立たないと思う。

→施設の整備も市民のニーズも踏まえてというような形で考えている。なかなかこのようなご意見を伺う場が無かったところでこういう説明会で意見をいただきたいへん有難く思っております。周知が足りずにご参加いただいた方が少なくなっていました。前回もご意見をいただいていたところであり、PTAにチラシを配布したり、公民館の窓口で配布してもらうなどやってみたが、参加者が少なく反省している。またこのような機会を通して皆様と意見交換をしながらよりよい施設の再編について考えていければと思っている。

第2回住民説明及び意見交換会（西武地区）の概要	
日 時	平成29年10月5日（木）午後7時～午後9時
場 所	図書館西武分館
参加者	21名
<p>○意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の説明会時に、教育委員会の方の出席をお願いしたが、来ているか。 →教育委員会の者に同席をお願いしたが、本日は来ていない。教育委員会の方が来ると学校の話だけになることが予測されるため、教育の方針、学校の配置に関する基本方針を聞いてきたので説明する。 →西武地区で意見のあった、小中一貫校については、今のところ具体的な取り組みはしていない。一貫教育については、子供たちや先生同士の連携を重視して取り組んでいく方針で進めて行く方向性である。地区の意見、他の自治体の例を鑑みて、小中一貫校のあり方の検討は必要だと思っている。 →また、学校の大きさについての考えは、児童の数について、小学校1年生については、1クラス35人を超えない範囲、他の学年と中学校は、40人を超えない範囲としているが、学校や地域の状況によって、検討の幅を持っている。入間市の小中学校の規模及び配置の適正化に関する基本方針では、小学校は各学年2から3学級、中学校については、全教科の教員が確保されるような全学年合計で、10から18学級が、入間市では適正だと考えている。理由としては、クラス替えによって学校の活性化や1人だと学校内の教育研究が無難しいのではないかと考えている。 →小中学校の適正配置については、文科省の通達などによると、通学距離について、小学校は概ね4km、中学校は概ね6kmで、学校は、地域の防災拠点ということも考慮する。西武地区の現状については、新光から西武小まで、概ね2.5km、牛沢から仏子小までは、概ね2kmである。国で言う4kmは、かなり距離があるので、適正規模等を考えて配置していくと示している。 ・仏子小と西武中を東町小中学校と同じように、一緒にした方がよいという意見を聞いたことがないか。 →地区懇談会で小学校中学校の統合の意見も出ている。 ・名前が違うから一緒にしてはいけないという感覚があるのでは。 →名前が違うからということではないが、西武地区の方は、西武という名前に愛着を持っていることは知っている。東町小中学校は、隣どうしで、小中一貫教育の効果が高いことで国からモデル校にされている。施設の整備を考えると、施設が遠いと小中学校間の連携が取りづらいこともあり、小中学校整備を考えてみてはという意見がある。 ・資料の地区懇談会における主な意見と同じ意見だが、資料の説明会の交換会のご案内の意見集は、何回目までの意見か。 →あくまで地区懇談会の意見集で2回目までの資料で、3回目は纏めている。 ・30年前に小中学校があったから、価値観を高く考えここへ来た。30年、 	

35年経過して、このようなビジョンがでたことは、残念に思う。ただ、仏子地区は、入間川を挟んで仏子地区と野田新光地区と別れている。人口の割合からみたら納得せざるを得ない。西武地区は、体育祭や納涼祭など非常に人同士の交流が良い。小学校から中学校までの少なくとも9年間は、この地区にいてはいけない。人口推計からみても、こういう計画でも仕方ない。統合したことによりクラスの数が増えれば交流面の効果や競争原理の意識の高揚が生まれるだろう。仏子地区は、大きな空地がないので、統合によって生じる敷地は、財産になるので、売却だけではなく、10年ごとの見直しの中で、跡地利用を考えて欲しい。

→跡地利用に関しては、計画では売却をして市の歳入を増やすことや、期限を区切って賃貸料を得て市の財政のプラスする考えがある。ただ、意見があるので、防災拠点ともなるので、慎重に跡地利用を考えたい。

・図書館について、40年ほど野田に住んでいる。佐賀県の武雄市は、時間を延長するなど飲食店を併用し評判が良い。映写室はお金を取って集客し有効活用すべき。柔軟性を持って、出来ない事を出来るように考えるべき。

→武雄市については、人気が高いのは承知している。平日は、開館時間の延長している。施設の利用料の見直しをしなければならないと思っている。

・公民館について、何年か前に利用料を上げたこと、貸出時間帯の変化で利用率を増やすことなどの考えを聞かせてもらいたい。

→全ての公民館について、開館時間は、9時から22時までの貸し出しになっている。使用される人に負担してもらうことで平成23年に料金の見直しをした。利用率が下がっていることは、貸出時間の細分化により利用率に表れてしまったかもしれない。会議室などの大きな部屋の利用率は高いが、和室や調理室は比較的低い。今すぐに建替えなどは無理だが、地域の要望を踏まえて施設の整備に生かしていきたい。

・小学校の規模について、教育委員会の指針によると、仏子小は今後も2クラスを維持し指針に沿って行くので、統合しなくてはいけないわけではないと思う。小学校に図書館を複合化する計画について、今の西武分館の機能を維持し複合するとは、思えない。かなり縮小した規模になり乱暴な計画だと思う。セキリュティ一面も心配だ。西武分館を建設中から見ていたが、大変立派な造りになっている。一度も修繕をしていない。修繕もせず40年で取り壊すことを考えていたらもったいないを通りこしている。図書館を無くして面積を減らすという考え方は、デジタル化で文科省の考えでは、デジタルの時代だから紙の図書を大切にしてもらいたい。施設から育まれる文化発信の大切さを文化都市入間市は大事にしてもらいたい。図書館の分館を潰して面積を減らすという愚行は取り消してもらいたい。

→小学校の児童の数については、将来的に児童数も踏まえて統合を計画していく。今すぐ統合するわけではない。学校の中の図書館について、西武分館をすぐ無くすわけではない。学校の図書館を充実していきたいと教育委員会

考えを持っている。市としても地域の図書館を充実していきたいと思っている。地域も学校も立派な図書館が、はたして良いか。学校の図書館の充実に併せて地域の図書館も考えていきたい。セキリュティーについては、先進事例を踏まえて考えていきたい。国からIT化で図書館を無くすという指示は無い。国からは、地域の公共施設の適正配置を考えなさいという通達は平成26年4月にでている。

- 学校に併設する考えは、新たにハコものをつくらないということに矛盾している。

→学校も建替えの時期が来ます。その時に図書館整備も併せて計画していきたいと考えている。

- 学校で、映画をやっているところあるか。

→学校の図書館の整備と学校の図書館の中で映画をやるかは、その時に検討すべき問題。将来的にここで、映画を上映しつづけるがあるかは、考えていく必要がある。

- この図書館は、まだ老朽化していないどころか新築に近い。

→平成4年に建てられている。すぐ、無くすということではない。将来的に便利な土地で、皆さんで何が必要かを考えなくてはいけない。定期的に修繕をして維持管理しなくてはいけないと思っている。

- 被災地では、図書館を作って欲しいと言っている。図書館は、本を読むだけの機能だけではなく、地域の交流場となる。産業文化センターと市民会館は2ついらぬ。図書館に本の寄付を断られた。前向きに考えて、地方に送っても良いのでは。飯能は、貸出については、IT化でセルフサービスとなっている。